

中高生のあま市への定住意識について

※あま市中高生の定住意識を分析するため、あま市に在住する 1,336 人の回答を抽出し、集計を行いました。

1. 今後の定住意識について

(1) 今後もあま市に住み続けたいと思いますか。

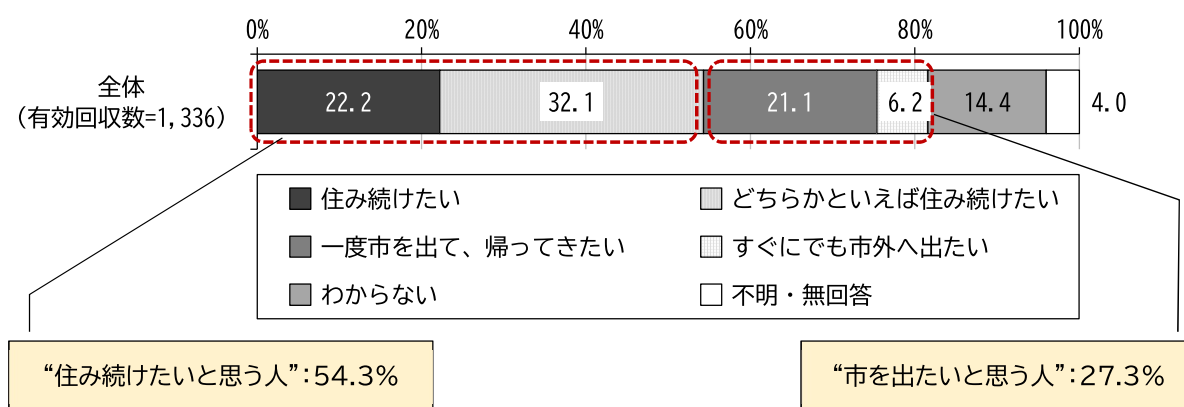
～住み続けたいと思う人は5割台半ば。一方中学生、高校生それぞれで、学年があがるとともに市を出たいと思う人は増加している～

今後のあま市への居留意向について尋ねたところ、「どちらかといえば住み続けたい」が 32.1%と最も高く、次いで「住み続けたい」が 22.2%、「一度市を出て、帰ってきたい」が 21.1%となっています。

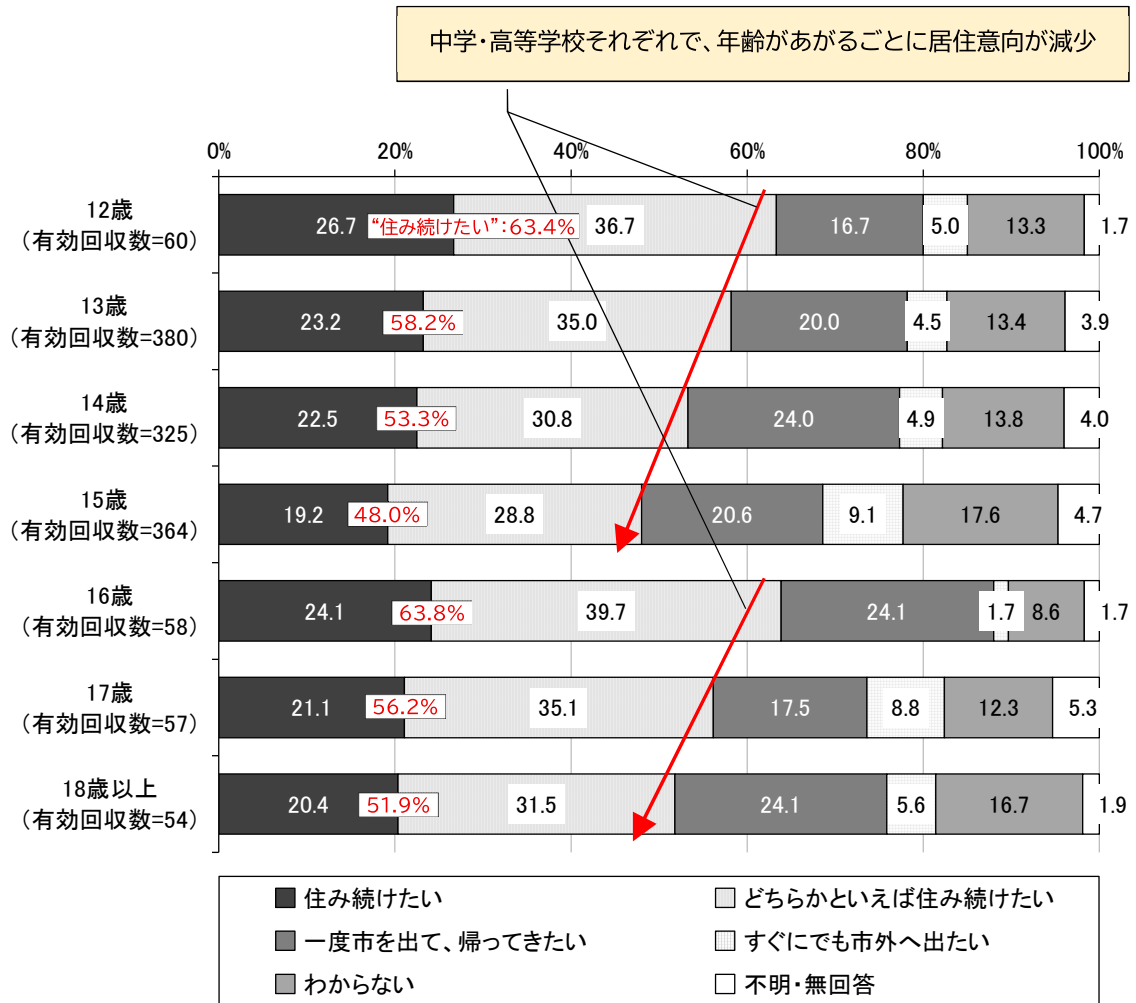
“住み続けたいと思う人”（「住み続けたい」＋「どちらかといえば住み続けたい」）は、54.3%となっています。一方で“市を出たいと思う人”（「一度市を出て、帰ってきたい」＋「すぐにでも市外へ出たい」）は、27.3%となっています。

年齢別にみると、“住み続けたいと思う人”は、〔12歳〕〔16歳〕で6割を超えていますが、〔15歳〕〔18歳以上〕では、5割前後と減少しています。また、“市を出たいと思う人”は、〔15歳〕〔18歳以上〕でともに29.7%と約3割となっており、中学や高校の入学時点では住み続けたいと思っているものの、それぞれ進路を考える時期となる中学3年生、高校3年生頃には市を出たいと思う人が増加していることが分かります。

■ 全体単純集計



■ 年齢別クロス集計



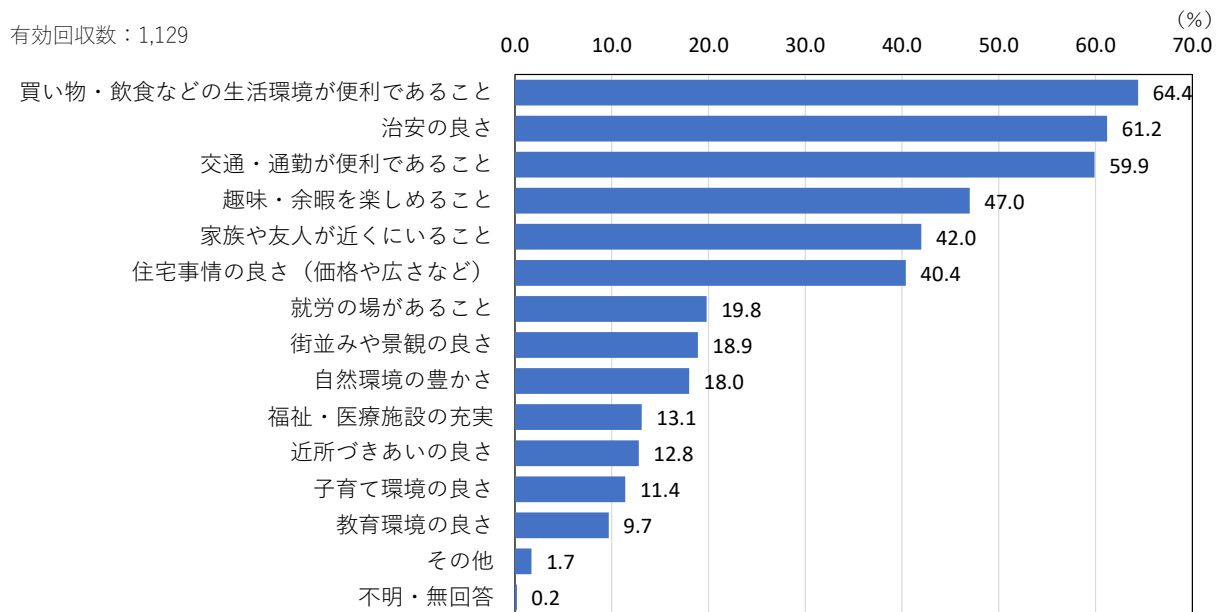
2. 年齢別の意識について

(1) 将来住む場所に求めたいもの（年齢別）

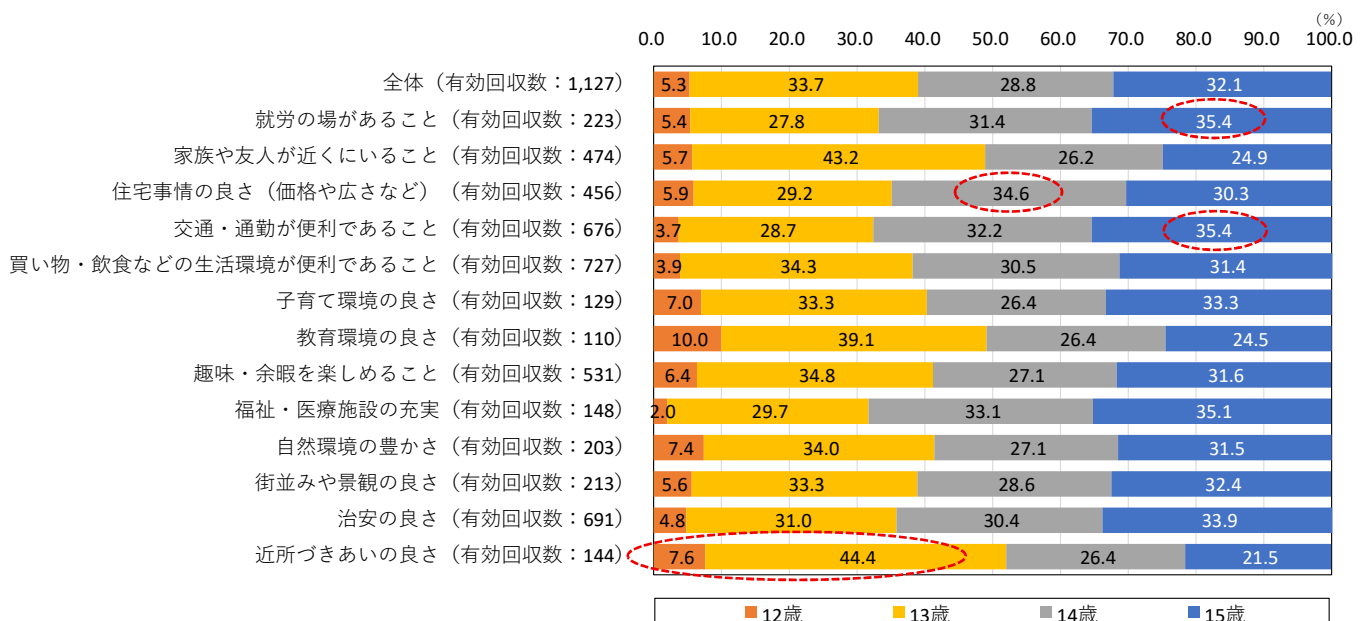
中学生・高校生年代別に、将来住む場所に求めたいものをみると、12～15 歳（中学生年代）では、「買い物・飲食などの生活環境が便利であること」が最も多く、次いで「治安の良さ」「交通・通勤が便利であること」「趣味・余暇を楽しめること」の順となっています。

年齢別に全体と比べて差のある項目をみると、12・13 歳では「近所づきあいの良さ」、14 歳では「住宅事情の良さ（価格や広さなど）」、15 歳では「就労の場があること」、「交通・通勤が便利であること」が全体よりも高くなっています。

■ 12～15 歳（中学生年代） 集計



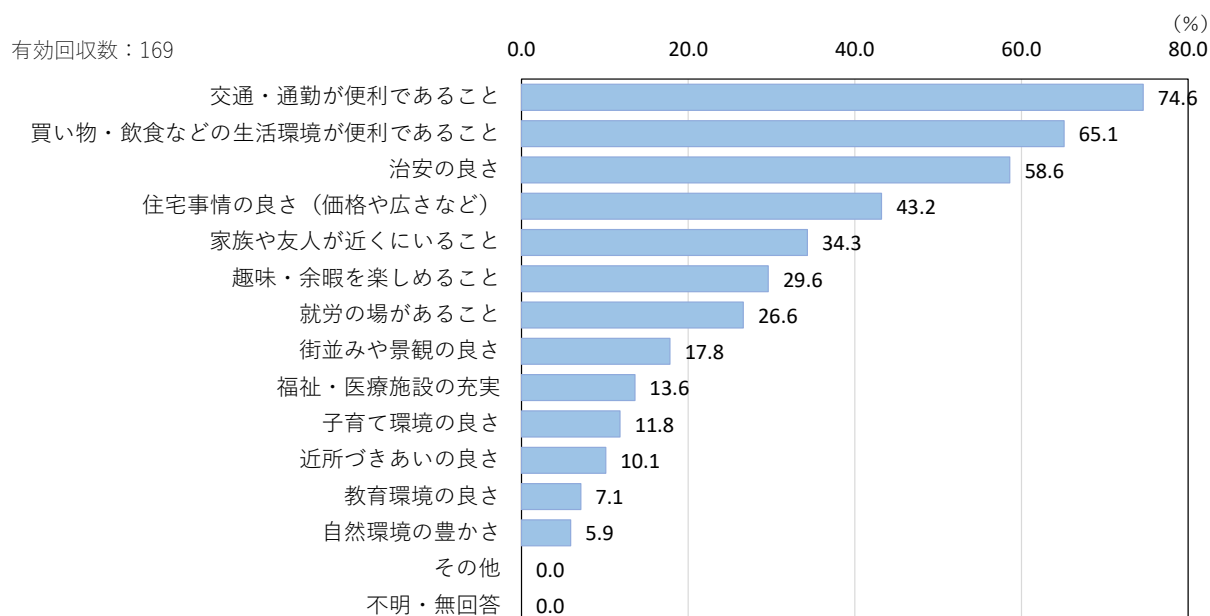
■ 12～15 歳（中学生年代） 各歳別集計



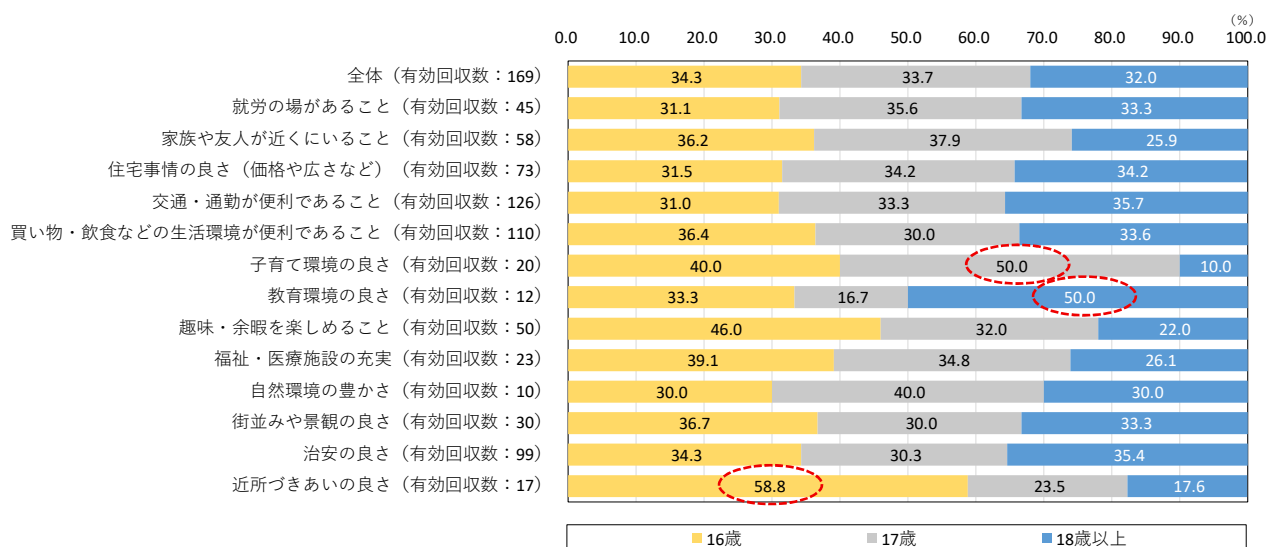
16～18 歳以上（高校生年代）における将来住む場所に求めたいものは、「交通・通勤が便利であること」が最も多く、次いで「買い物・飲食などの生活環境が便利であること」、「治安の良さ」、「住宅事情の良さ（価格や広さなど）」の順となっています。

年齢別に全体と比べて差のある項目をみると、16 歳では「近所づきあいの良さ」、17 歳では「子育て環境の良さ」、18 歳では「教育環境の良さ」が全体よりも高くなっています。

■ 16～18 歳以上（高校生年代）集計



■ 16～18 歳以上（高校生年代）各歳別集計

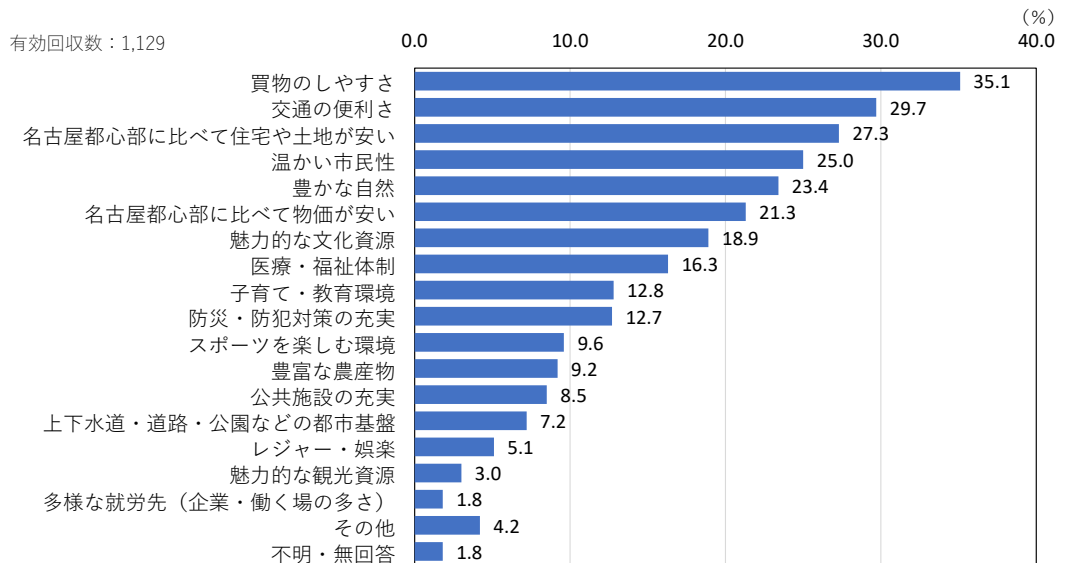


(2) あま市の魅力と思うもの（年齢別）

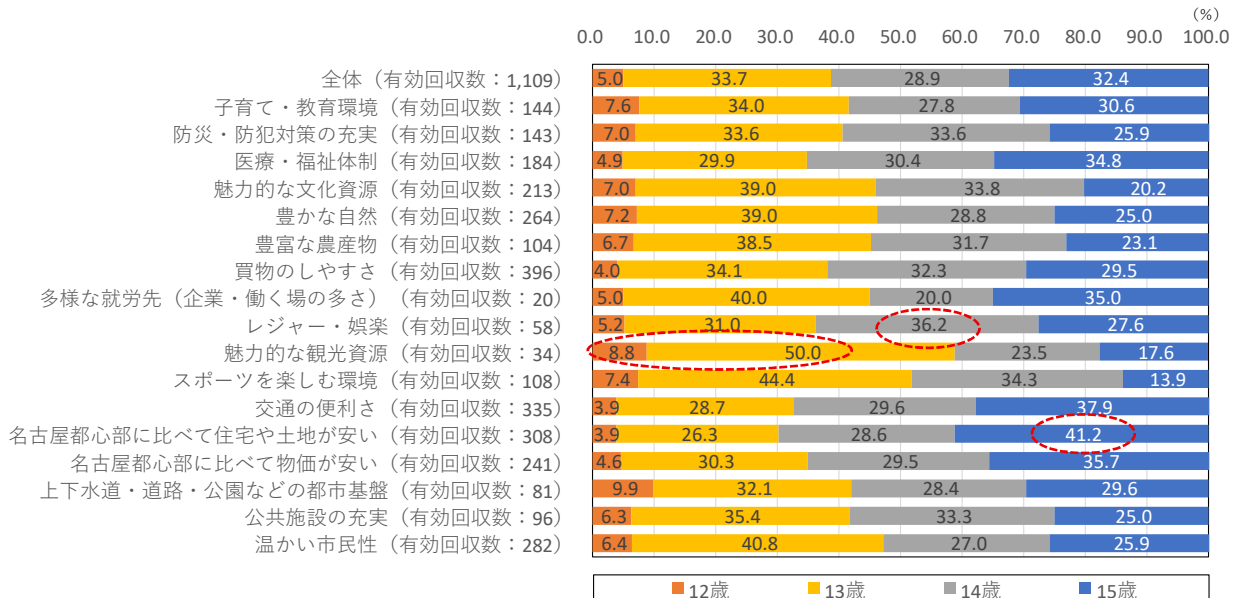
中学生・高校生年代別に、あま市の魅力と思うものをみると、12～15 歳（中学生年代）では「買物のしやすさ」、「交通の便利さ」が最も多く、次いで「交通の便利さ」、「名古屋都心部に比べて住宅や土地が安い」の順となっています。

年齢別に全体と比べて差のある項目をみると、12・13 歳では「魅力的な観光資源」、14 歳では「レジャー・娯楽」、15 歳では「名古屋都心部に比べ住宅や土地が安い」が全体よりも高くなっています。

■ 12～15 歳（中学生年代）集計



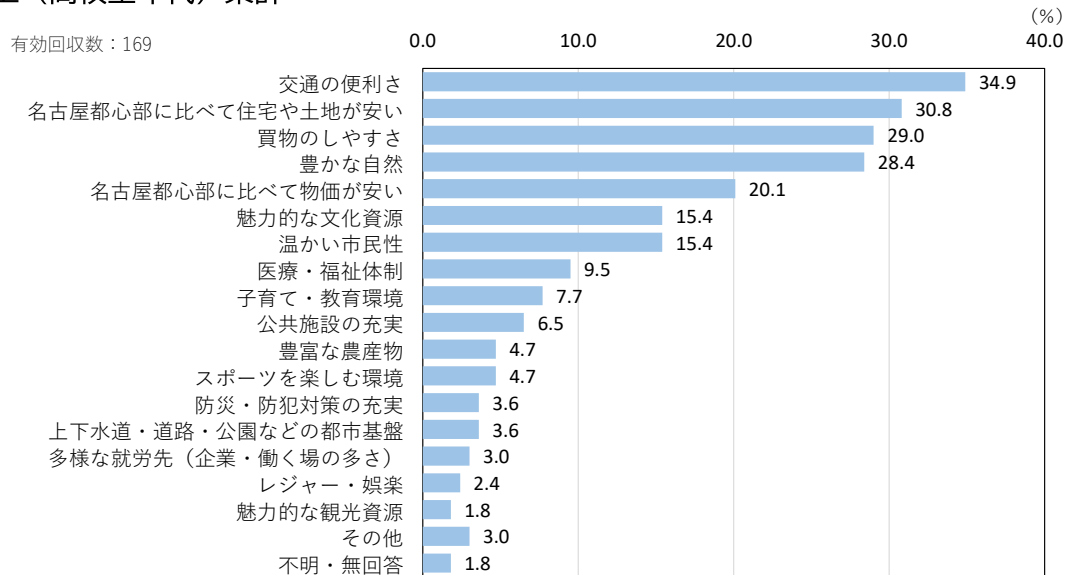
■ 12～15 歳（中学生年代）各歳別集計



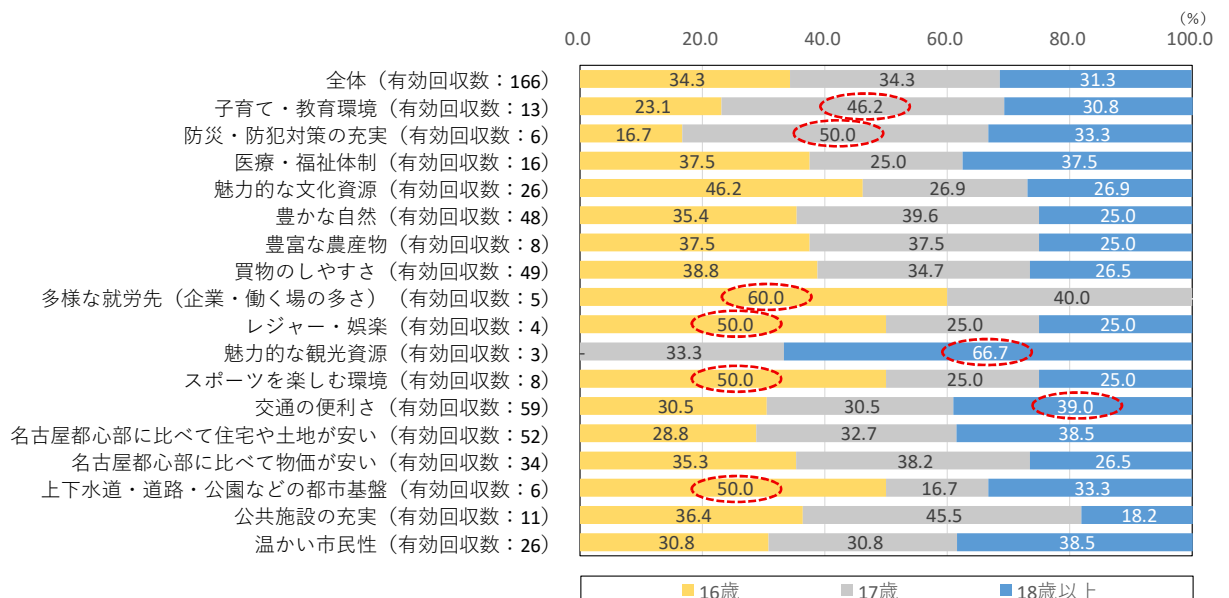
16～18 歳以上（高校生年代）におけるあま市の魅力と思うものは、「交通の便利さ」が最も多く、次いで「名古屋都心部に比べて住宅や土地が安い」、「買物のしやすさ」の順となっています。

年齢別に全体と比べて差のある項目をみると、16 歳では「多様な就労先」、「レジャー・娯楽」「スポーツを楽しむ環境」、「上下水道・道路・公園などの都市基盤」、17 歳では「防災・防犯対策の充実」、「子育て・教育環境」、18 歳以上では「魅力的な観光資源」、「交通の便利さ」が全体よりも高くなっています。

■ 16～18 歳以上（高校生年代）集計



■ 16～18 歳以上（高校生年代）各歳別集計



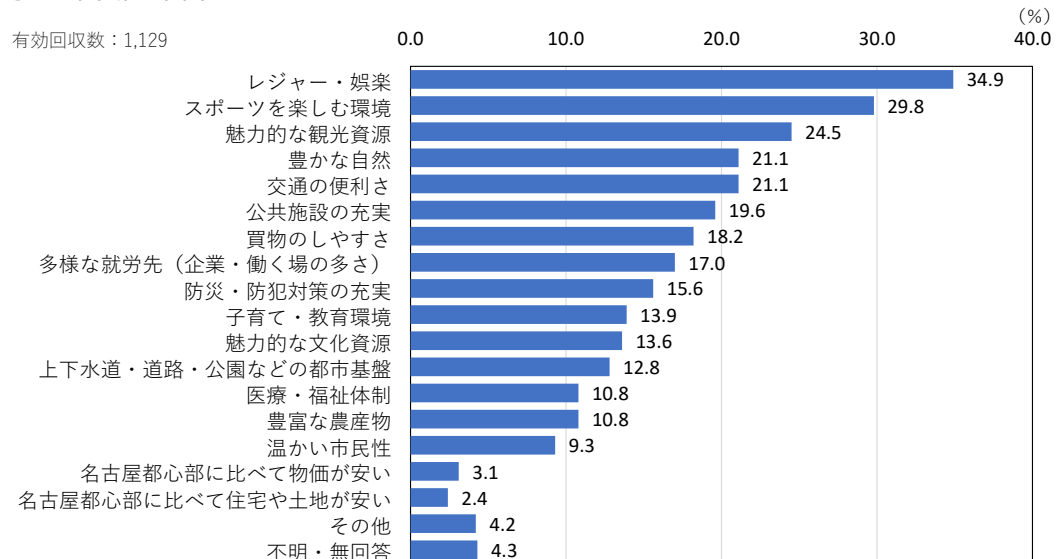
※赤色点線の○印は、各歳において全体に比べ最も高い項目の割合を囲んでいますが、有効回収数が少ない項目については、1件当たりの割合が大きくなるため、各歳における2位以下の項目も参考データとして印を付けています。

(3) あま市に不足していると思うもの（年齢別）

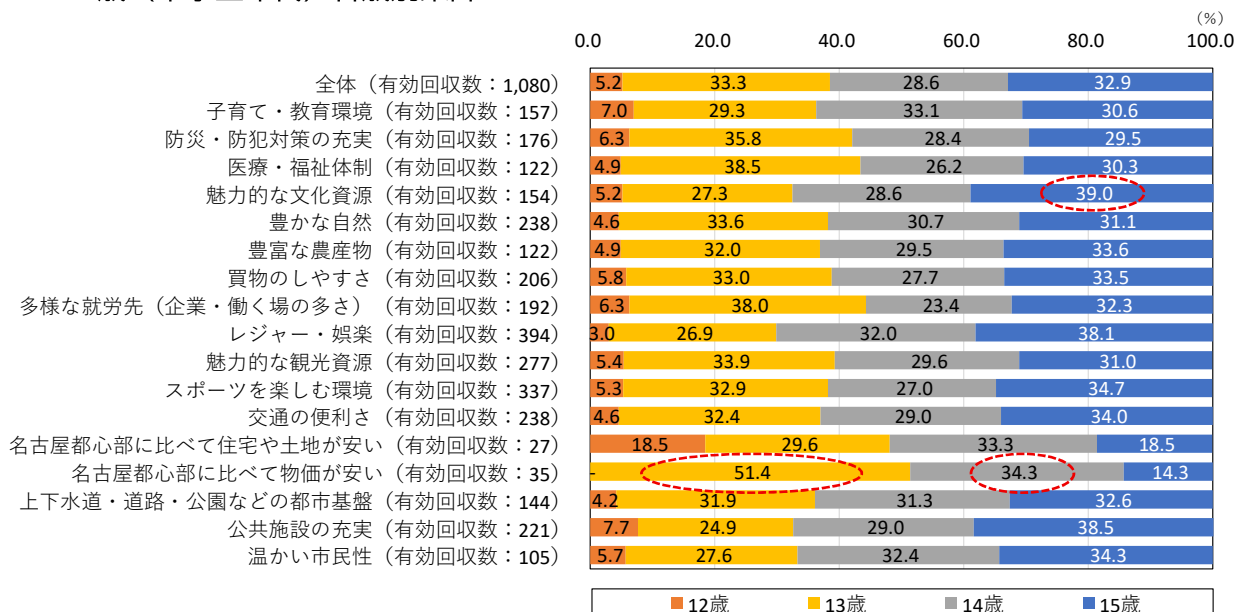
中学生・高校生年代別に、あま市に不足していると思うものをみると、12～15 歳（中学生年代）では、「レジャー・娯楽」が最も多く、次いで「スポーツを楽しむ環境」、「魅力的な観光資源」、「豊かな自然」、「交通の便利さ」の順となっています。

年齢別に全体と比べて差のある項目をみると、13 歳及び 14 歳では「名古屋都心部に比べて物価が安い」、15 歳では「魅力的な文化資源」が全体よりも高くなっています。

■ 12～15 歳（中学生年代）集計



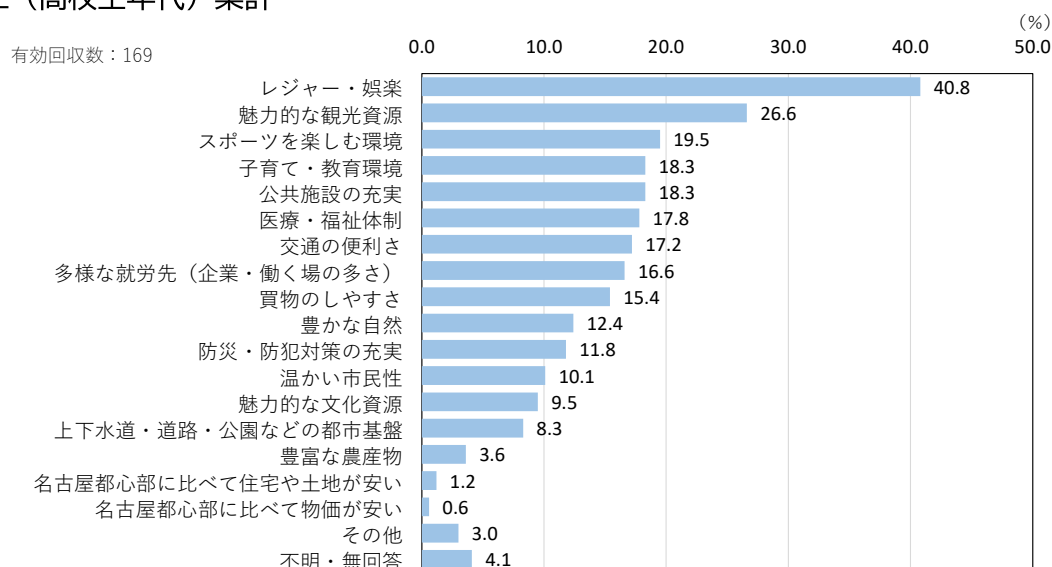
■ 12～15 歳（中学生年代）各歳別集計



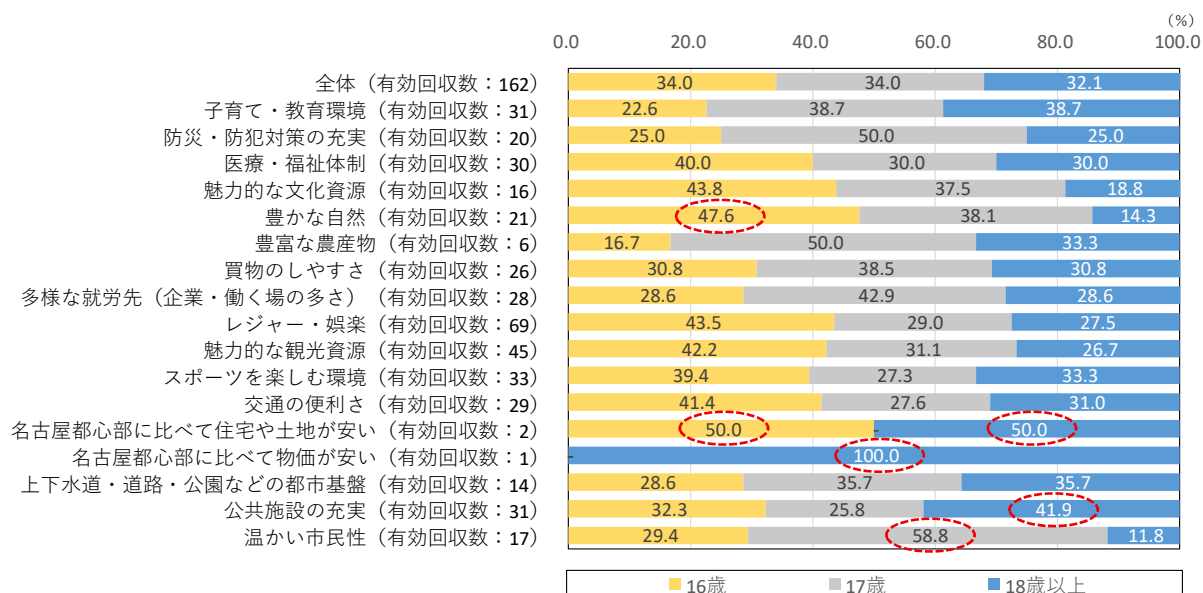
16～18 歳以上（高校生年代）におけるあま市に不足していると思うものは、「レジャー・娯楽」が最も多く、次いで「魅力的な観光資源」、「スポーツを楽しむ環境」、「子育て・教育環境」、「公共施設の充実」の順となっています。

年齢別に全体と比べて差のある項目をみると、16 歳では「名古屋都心部に比べて住宅や土地が安い」、「豊かな自然」、17 歳では「温かい市民性」、18 歳以上では「名古屋都心部に比べて物価が安い」、「名古屋都心部に比べて住宅や土地が安い」、「公共施設の充実」が全体よりも高くなっています。

■ 16～18 歳以上（高校生年代）集計



■ 16～18 歳以上（高校生年代）各歳別集計



※赤色点線の○印は、各歳において全体に比べ最も高い項目の割合を囲んでいますが、有効回収数が少ない項目については、1 件当たりの割合が大きくなるため、各歳における 2 位以下の項目も参考データとして印を付けています。

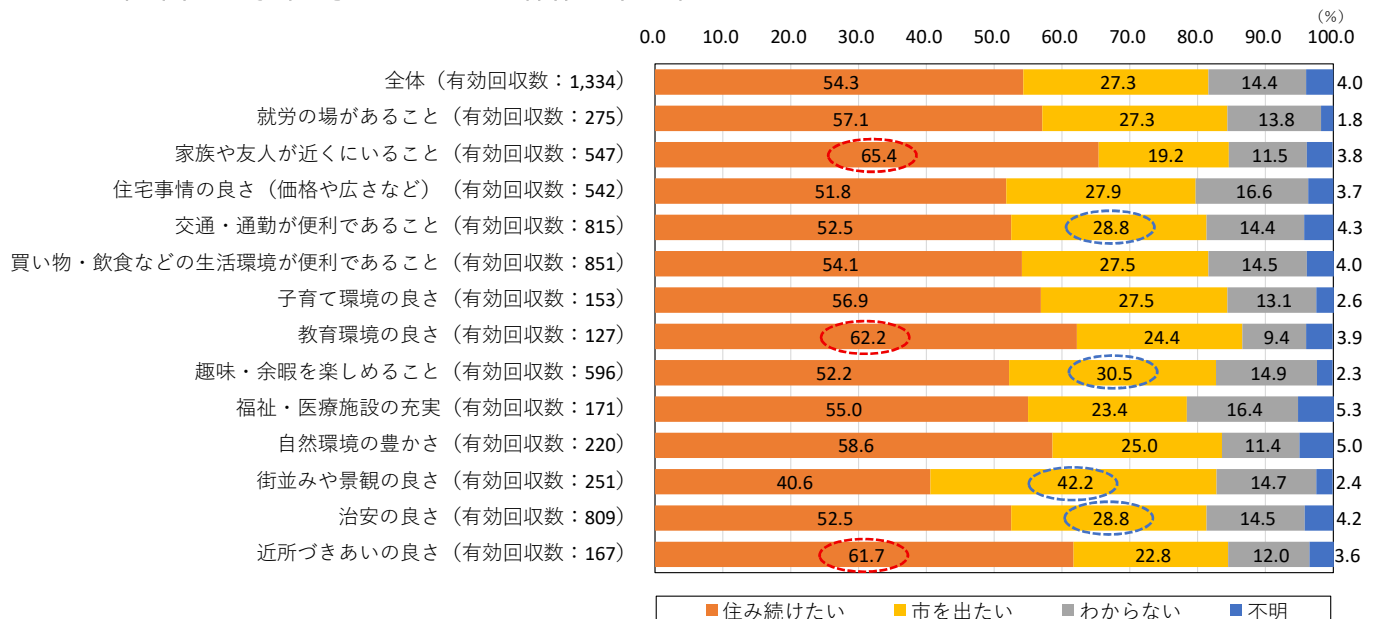
3. 居住意向別の意識について

(1) 将来住む場所に求めたいもの（居住意向別）

居住意向別に将来住む場所に求めたいものをみると、住み続けたいと思う人は「家族や友人が近くにいること」、「教育環境の良さ」、「近所づきあいの良さ」が全体よりも高くなっています。

市を出たいと思う人は「街並みや景観の良さ」「趣味・余暇を楽しめること」「交通・通勤が便利であること」「治安の良さ」が全体よりも高くなっています。

■ 将来住む場所に求めたいもの（居住意向別）

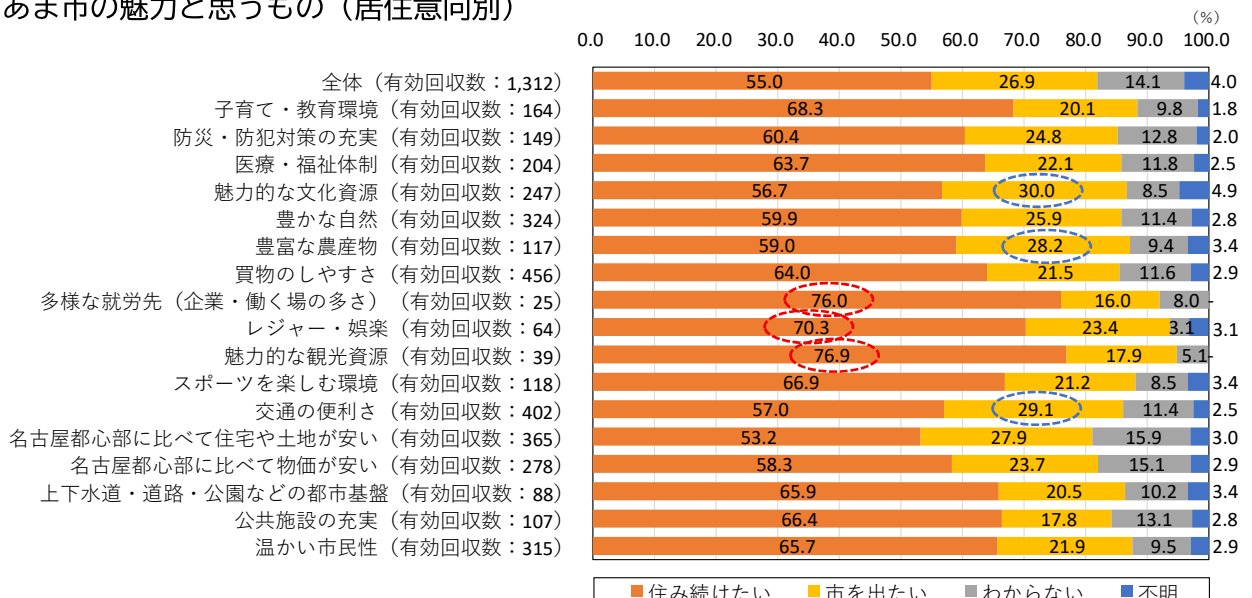


(2) あま市の魅力と思うもの（居住意向別）

居住意向別にあま市の魅力と思うものをみると、住み続けたいと思う人は「魅力的な観光資源」、「多様な就労先（企業・働く場の多さ）」、「レジャー・娯楽」が全体よりも高くなっています。

市を出たいと思う人は「魅力的な文化資源」、「交通の便利さ」、「豊富な農産物」が全体よりも高くなっています。

■ あま市の魅力と思うもの（居住意向別）

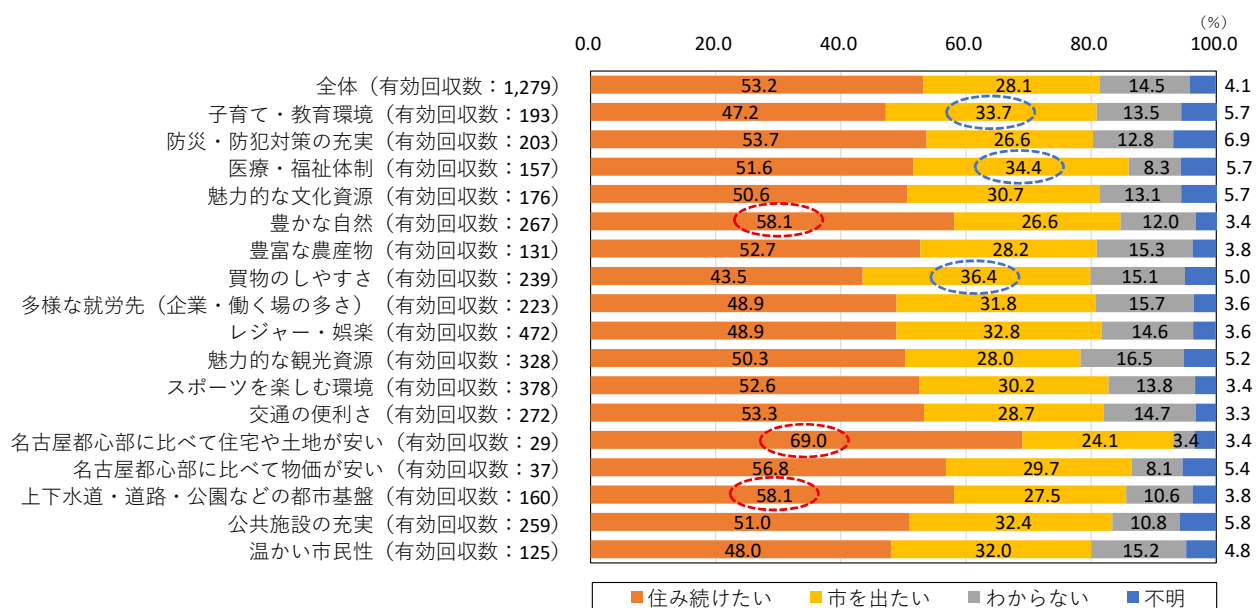


(3) あま市において不足していると思うもの（居住意向別）

居住意向別にあま市において不足していると思うものをみると、住み続けたいと思う人は「名古屋都心部に比べて住宅や土地が安い」、「豊かな自然」、「上下水道・道路・公園などの都市基盤」が全体よりも高くなっています。

市を出たいと思う人は「買物のしやすさ」、「医療・福祉体制」、「子育て・教育環境」が全体よりも高くなっています。

■ あま市において不足していると思うもの（居住意向別）



4. まとめ

あま市の中高生の定住意向は、“住み続けたいと思う人”が全体の過半数を占めるものの、進路選択の時期にあたる中学3年生（15歳）や高校3年生（18歳以上）になると“市を出たいと思う人”や“わからない”が増加する傾向にあります。

中高生年代別にクロス集計を行った結果では、将来住む場所に求めたいものとして、中学生年代では、「買物・飲食」が最も多く、次いで「治安」「交通・通勤」「趣味・余暇」と続いており、自宅から比較的近い場所での利便性や安心感、娯楽性に関する回答が多くなっています。

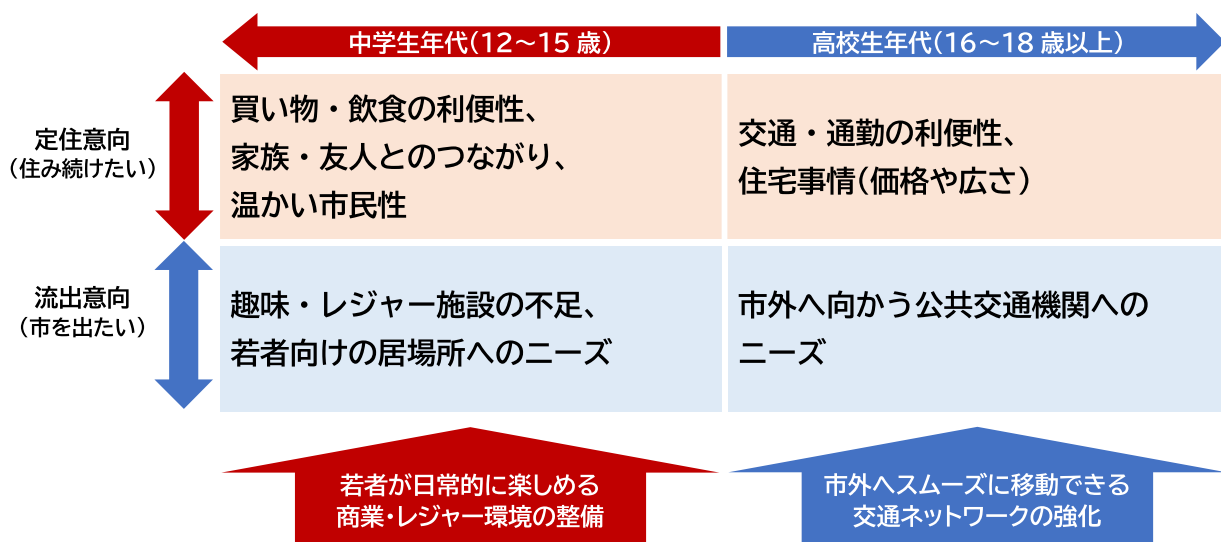
高校生年代では、「交通・通勤」が最も多く、次いで「買物・飲食」「治安」「住宅事情」と続いており、市外の大学等への進学や就職、あるいは独立した生活を意識し、実生活の利便性に関する回答が多くなっています。

あま市の魅力を尋ねた設問では、中学生年代は「買物のしやすさ」、高校生年代は「交通の利便さ」や「名古屋都心部に比べて住宅や土地が安い」が多くなっています。一方で、あま市において不足していると思うことについては、中高生ともに「レジャー・娯楽」「魅力的な観光資源」「スポーツを楽しむ環境」が多くなっています。

また、定住意向を分析軸としてクロス集計を行った結果、“住み続けたいと思う人”は、買い物や交通の基本的な生活利便性に加え、家族や友人といった身近な人間関係や温かな市民性、教育環境の良さに価値を見出しています。一方で“市を出たいと思う人”は、趣味・余暇、魅力的な街並みといった体験や娯楽性、また市外へアクセスする交通の利便性、移動手段の充実を重視している傾向があります。

今後の定住促進に向け、若者の流出を防ぐ、あるいは将来的なUターンを促すためには、生活環境の基本スペック（一般的な利便性や治安）を維持するとともに、定住意向に関わらず「趣味・余暇を楽しめる場所」が共通して求められているため、若者が日常的に楽しめる商業・レジャー環境の整備や市外の教育機関との連携、市外へスムーズに移動できる交通ネットワークの充実、家族・友人とのふれあいや温かな市民性を活かしたコミュニティ施策の充実等が求められます。

■中学・高校生それぞれの定住・流出意向と定住に向けた施策の方向性



以上